

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立浜川中学校

国語

科

令和8年度『品川区学力定着度調査』分析資料

(1) 各教科の定着状況についての概要

7年生

全国平均は上回ったが、品川区平均は下回った。昨年度の同学年が全国平均を下回っていたことを鑑みれば、学力の向上が見られたと言える。

8年生

全国平均を上回ったが、品川区平均は下回った。昨年度の同学年の数値的な結果と比較すると、学力の向上が見られる。

9年生

全国平均は上回ったものの、品川区平均は下回った。昨年度の同学年の数値的な結果と比較すると、学力の向上が見られたといえる。

(2) 具体的な課題

7年生

「漢字を書く」と「文法・語句に関する事項」の文の成分の分野に課題が見られる。

8年生

「漢字を書く」の分野が、目標値・全国平均・区平均を大幅に下回っている。

9年生

「漢字の書き」および「文章を書くこと」の項目が課題であり、全国平均に比べても顕著に正答率が低い。

(3) 課題の原因として考えられること

7年生

手で「書く」機会が激減している。作文やレポート等をiPadを使用して作成しているため、正しい字面で文字を書くことを苦手としている生徒が多い。また生活の中でも手紙を書いたり、年賀状を書いたりという経験が全くない生徒も多い。

8年生

紙に文字を書く機会が減少していることもあり、漢字の練習時間が不足している。字形を整えて書くこと自体を苦手としている生徒も多い。

9年生

手書きの文字を書く機会が減少しており、授業でもiPadを使用して学習しているため、漢字を思い出して書くことを苦手としている生徒が多い。漢字の復習の機会が乏しかったことで、中1、中2の漢字を忘れている。また、全体の構成を意識して手書きで文を書くことにもハードルがある。

(4) 課題解決のための方策(取組指標)

7年生

授業開始時に手書きで漢字練習に取り組ませている。2学期の書き初め(毛筆)指導の前に、硬筆書写に取り組ませる。授業時の自筆でのノート作成を促す。

8年生

授業時間内に行っている漢字練習の力試しとして、週に一度、漢字の小テストを実施している。また、長期休み明けにも漢字テストを実施しており、継続的・計画的に漢字練習に取り組めるよう指導している。反復練習と実践練習を繰り返し行わせることで、知識の定着を図っていく。

9年生

夏休みの課題として中1、中2の範囲の漢字の復習に取り組ませている。2学期以降は、自己PRなど作文を書く機会が多いため、構成と要件を意識して短い文を書くことに重点をおいて取り組ませたい。

社会

科

令和8年度『品川区学力定着度調査』分析資料

(1)各教科の定着状況についての概要

7年生	前年度の校内平均正答率は上回ったが、品川区平均・全国平均正答率は下回っている。正答率が低い領域としては「我が国の政治」が最も低く、品川区平均を下回っている。
8年生	校内平均正答率は、品川区、全国平均正答率をともに上回ることができた。
9年生	校内平均正答率は、品川区平均正答率を下回っている。

(2)具体的な課題

7年生	正答率において、基礎知識の正答率が低くなっている。
8年生	領域別の正答率において、歴史(縄文時代～平安時代)の正答率が低くなっている。
9年生	正答率は活用の部分が平均を大きく下回っている。また、領域別の正答率においては「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」が最も低くなっている。

(3)課題の原因として考えられること

7年生	基礎的な知識が定着していない。また、知識を定着させるための学習習慣も身につけていない。
8年生	7年次の始めに学習した原始～古代の正答率が低くなっているため、期間が離れた学習内容の定着ができていない。
9年生	基礎的な知識が定着していないため、活用問題の正答率も低くなっている。

(4)課題解決のための方策(取組指標)

7年生	毎回の授業の始めには前時の内容確認、授業の終わりには本時の内容確認を生徒主体で行わせる。また、テーマや單元ごとに基づいた小テストを実施することで、学習習慣を身に付けさせる。
8年生	前年度に学習した内容も含め小テストを実施して、繰り返し学習できるような環境を整える。
9年生	普段の授業から、生徒同士の探求活動を多く取り入れ、思考力を養う。また、小テストなどでも思考力を問うものを多く出題する。

数学

科

令和8年度『品川区学力定着度調査』分析資料

(1)各教科の定着状況についての概要

7年生	校内平均正答率は、目標値を上回ったが、区平均を下回った。基礎、活用や領域別では「数と計算」領域以外すべて区平均を下回った。
8年生	校内平均正答率は、目標値を上回ったが、区平均正答率を下回った。また、領域別正答率に関しては、「関数」以外の領域が区平均正答率を下回った。
9年生	校内平均正答率は、目標値、全国平均正答率を上回ったが、区平均正答率を下回った。また、活用と「図形」「データの活用」では目標値と全国平均正答率を下回った。

(2)具体的な課題

7年生	領域別の結果として、「図形」において体積を求めるところでは、図形を構成する辺や高さなどの情報を正しく読み取り、どの立体としてとらえればよいかを判断する力に課題が見られる。
8年生	特に、「1次方程式」「データの分布の傾向」に関する問題の正答率が低く、基本的な計算力や文章や資料を基に分析する力が不十分である。
9年生	特に、図形の性質や証明に関する問題、データの活用に関する問題の正答率が低かった。

(3)課題の原因として考えられること

7年生	見取り図から底面や高さといった体積を求めるために必要な情報を読み取る力や、複数の手順を整理して立式する力が十分に身につけていないと考えられる。
8年生	基本的な計算問題においては、確認や演習不足が考えられる。また、文章や資料を正確に読み取り考察し、論述することに苦手意識をもっている生徒が多いと考えられる。
9年生	計算やグラフの読み取り、知識を問う問題の正答率が高いことから、文章や資料からの読み取りおよびそれらを分析して論述することが苦手であると考えられる。

(4)課題解決のための方策(取組指標)

7年生	年度末までに、図形領域における体積の正答率向上を目指し、授業の導入で既習内容を毎時間5分程度確認するとともに、図形の見方・考え方を説明する活動を継続して行う。
8年生	年度末までに、定期的に計算問題の復習を行い、基本的な計算力の向上を図る。また、物事を批判的、多角的な目線で捉えられる力を醸成していく。
9年生	年度末までに、文章の読み取りや図形の論証問題に多く取り組ませる。また、どのように答えを導いたかを説明できるような指導を行う。

理科

令和8年度『品川区学力定着度調査』分析資料

(1)各教科の定着状況についての概要

7年生	基礎については、区平均や前年度校内平均より下回った。 区平均に比べ、物理分野は上回っており、生物・地学分野は下回っている傾向がある。化学分野には単元によってバラツキが見られる。
8年生	基礎、活用については区の平均正答率を上回っている。しかし、「粒子」の領域においては下回っている。
9年生	基礎については区の平均正答率に比べ上回っているが、活用については下回っている。「エネルギー」「粒子」「生命」は正答率は上がっているが、「地球」は下回っている。

(2)具体的な課題

7年生	化学分野で特に「物の燃え方」が低い。問題を見ると、誤答が多い。 物質そのものの性質を理解していない、もしくは方法の特徴などを理解していない。
8年生	「粒子」の領域で特に「気体の性質」が低い。問題を見ると気体の集め方、二酸化炭素の性質を理解していない。
9年生	地球領域を中心に学習内容がまだ定着していない。特に、気象観測など目に見えない事象に関する問題の理解に課題が見られた。

(3)課題の原因として考えられること

7年生	誤答が多い。物の燃え方では、物が燃え続けているときの、筒の中の空気の流れは「上に行く」と答えれば良いが知識不足のため正しい答えが書けない。 同じように、気体の性質から消火に適切な気体を答えられない。
8年生	無解答ではなく、誤答が多い。気体の集め方では「水上置換法」と答えれば良いが、知識が不十分であるため、正しい答えを導けていない。同じく、二酸化炭素の性質が十分理解できておらず、選択肢を最終的に絞れていない。
9年生	授業での、詰込み学習が原因と考えられる。また、反復練習が足りない。それに関連し、事象について自分の考えを表現することができない。正しい知識の定着が必要である。

(4)課題解決のための方策(取組指標)

7年生	物質の性質や基礎部分の定着が不十分であるため、基礎分野の定着に重点をおく。ワークなどを活用した演習や単元ごとのテストの実施を行い、定着を図る。また、テストでは、活用問題を出題・解き直しを行い、理解力の向上を目指す。
8年生	年度末までに、授業や宿題等で学習内容を反復させることで、学習内容の定着を図る。章末ごとに小テスト、単元テストを実施し、活用問題に取り組ませることで、理解力の向上を目指す。
9年生	2月までに、授業や宿題で学習内容を反復させることで学習内容の定着を図る。また、昨年度に引き続き、自分の考えを表現することに重きを置いたり、定期考査で活用問題を出題したりすることで、「思考力・判断力・表現力」のさらなる改善を目指す。

英語

科

令和8年度『品川区学力定着度調査』分析資料

(1) 各教科の定着状況についての概要

7年生	校内正答率は、基礎・活用ともに全国平均、区平均、目標値のすべてを上回ることができた。領域別でもほとんど上回っているのだが、唯一「読むこと」が区平均より下回ってしまった。ただわずかなポイントのマイナスであった。
8年生	校内正答率は全国平均より上回ったが、品川区の平均より下回った。校内平均正答率と区平均正答率を領域別に比較した場合、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」が下回っている。
9年生	校内正答率は基礎・活用とも目標値、全国平均より上回ったが、品川区平均を下回った。領域別で見ると、「聞くこと」については品川区平均を上回った。

(2) 具体的な課題

7年生	他と比べると「英作文」「英文の完成」の正答率が低く、「英作文」に関しては半数以上が達していない。3技能の中で「書くこと」は生徒の苦手分野であり、今回もその傾向が顕著であった。
8年生	「書くこと」に関して課題がある。特に、「並べ替え問題」と「情報に基づいて書く英作文」の2つの項目が、区の平均正答率と比較して低い。また、「語彙の知識・理解」においても低く、単語力も課題である。
9年生	「長文の読み取り」と「3文以上の英作文」が課題である。長い英文を「読むこと」、また自分の思いや考えを既習の文法や単語を使って「書くこと」に慣れていない。

(3) 課題の原因として考えられること

7年生	小学校の英語の授業を通して、英語を口に出すことにどんどんと抵抗がなくなっているのを感じる。しかしその分、正しく書くことができなくなっている。タブレット活用の影響もあり、ノートに書くという経験が少なくなっているということが関係していると考えられる。
8年生	7年次からの基礎的な学習内容、語彙力、文法理解力が定着していない。実際に自分でノートに単語や英文を書いて覚える学習活動が少なかったため、文の構造を理解できていないことが原因と考えられる。
9年生	授業の中で、長い英文を「読む」活動、また自分の思いや考えを既習の文法や単語を使って「書く」活動が足りなかった。1文で書く活動は慣れているが、3文で書くことに慣れていない。

(4) 課題解決のための方策(取組指標)

7年生	4技能をバランスよく授業に組み入れていく。その際にいい加減な英語になるのではなく、正しい英文を意識させていく。そして、その英文を書く機会を多く設ける。授業でのプリント、ノート・ワークの活用、宿題等で正しい語順、正しいスペルで書く練習を行っていく。
8年生	語彙力の強化、また学習した文法項目や英文理解力を向上させるために、実際にノートに単語や品詞、英文を書く練習を習慣化させる。また教員が作成した授業プリントを活用し、英作文を行う機会を設け、教員による添削を行い、書く力を伸ばしていく。
9年生	既習の文法を使って3文程度の英文で自分の思いや考えを簡潔な文で書き、添削、フィードバックの後、発表まで繋げていく。また教科書の英文だけでなく、長い英文を読む活動に多くの時間を費やし、限られた時間の中で長い英文を読む活動を取り入れる。